



2021年6月1日からの  
国会請願国賠署名、同盟員拡大到達表 2022.3.1 現在

支 部	国賠署名		同盟拡大	
	目 標	到 達	目 標	到 達
岡 山	7,000	1,523	200	221
備 南	2,500	126	80	64
美 作	800	233	50	33
玉 野	700	116	20	20
県 計	10,000	1,988	350	339

「ロシアはウクライナへの侵攻をやめろ!」世論で包囲を  
「海外で戦争をする国への暴走はやめろ!」今こそ、平和憲法を生かす政治を!



写真提供 岡山民報

岡山県版  
No. 311  
2022年3月15日  
治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
岡山県本部  
〒710-0131  
倉敷市天城台  
4-7-12 福井方  
振替 01300-4-99361  
mail : family-fukui@  
khf.biglobe.ne.jp

ウクライナ侵略反対の国際世論で包囲しよう  
伊藤千代子映画上映運動、6月全国大会への  
会員拡大・国賠署名に全力を  
国賠同盟員本部長 小山博通

ロシアのウクライナへの軍事侵攻は「覇権主義」の害悪を体現し、国際秩序を破壊する一九世紀を再現したかのような暴挙です。今、世界が侵略戦争反対の声でロシアを包囲しています。

ロシアが「核兵器保有」を振りかざし、世界を威嚇したことは「核抑止力」論がいかに危険かをしめしました。安倍元首相らは「防衛力の強化へ核の保有」を明言する状況さえ生まれています。

国内政治では、憲法に違反する「敵基地攻撃能力保持」を指し、憲法改悪まで狙う自公政権に対し、維新など野党による翼賛政治志向が強まっています。

7月参院選は、平和憲法の改憲を許すかどうか、一大政治決戦になります。

国賠同盟は、この重大情勢の中で、六月一〇日の第四〇回全国大会成功に向け三月一日から六月三〇日までを特別期間に設定し、会員二万人と、五月一日の国会請願を二〇万筆の署名をもって行い、翼賛反動化政治「治安維持法体制」打破を掲げ、全力を尽くしています。

映画「わが青春つぎるとも」を語ることは「治安維持法犠牲者」を語り、会員拡大、国賠署名に直結します。会員拡大と署名目標達成をめざして、力を尽くそうではありませんか。私もその先頭に立つ決意です。

# 治安維持法下の闘い

## 荻田アサノ（一九〇五年～一九七三）



荻田アサノは、津山で代々地主である裕福な家に生まれた。子供のところから優しい性格で、小作の農民が年貢をまけてほしいと父親に頼みに来るとアサノは父親の傍で話を聞いており、「お父さんかわいそうだからまけてあげたら」といった。父親はアサノに言われると年貢をよくまけたという。

津山の高等女学校を卒業して日本女子大國文科に進むが、ロシア文学に興味を持ち早稲田大学の露分科聴講生となり、ロシア文学の翻訳をするなどしながら、社会主義思想に傾倒。卒業後、一九三一年日本共産党に入党する。

母親がアサノの嫁入りにと貯めていたお金を共産党に寄付する。一九三三年、治安維持法違反で検挙され、一九三五年に出獄するが、アサノの寄付した党の財源は、党内にいたスパイや腐敗分子が私的に使っていたことを知って非常に苦しんだ。拘留中のひどい拷問に

ついては、一言も語らなかつた。

暫く東京の東洋経済新報社で翻訳の仕事をしていたが、特高の目が光り、憲兵まで繰り出してきたので、やむなくアサノは津山に帰る。

戦後は岡山の上伊福に下宿し仕事をしながら、詩人吉塚勤治と出会う。ネクラーツフを訳した一部が、久保文子・矢木明が中心になっていた「くるまざ」で発表された。その後も関わりを持ち、幾編かの詩を掲載している。阿修羅、三月堂月光菩薩などである。

### 朝

金盞花を入れた花がめのそばから小さな化粧水の瓶をとってほのかな匂いのある水を手にはさす  
それからフキンをかけた小瓶のまえにすわって  
お母さんおはようございますと

北にむかつてあいさつする  
くるしみもかなしみも  
またときには訪れたかもしれない  
歎びも

髪をとめない、しずかなとしより  
瞳をした白髪のおだやかな  
母の顔を思いうかべ  
このろたりおちついてゆっくり  
と



## 山手叡（さとし）さんを偲んで

玉野支部 小野富男

山手叡さんが二月一三日、九三才で逝去されました。

先月末に娘さんにお会いした時は「元気に頑張っていますよ」ということでしたが、突然の訃報に驚きました。

山手さんは一九四三年に三井造船に入所し、一九四九年から日本共産党の常任活動家として「レッド・パージ」と闘い、その後の党再建に奮闘しました。

その後、地区委員長、県委員長の重責を担い、県下の民主運動、日本共産党の躍進の礎を築きまし

ただ一人きりの つつましい朝げの箸をとる

これは荻田アサノが岡山で母を思った詩である。戦後は再入党し、一九四九年衆議院岡山二区から初当選する。その後も婦人運動、党建設に身をささげ活動するが、一九七三年八月五日、代々木病院にて他界。六八歳であった。

党中央に赴任してからは機関紙局長、統一戦線部副部長、日常活動局長を務め、また山梨県委員長、広島県委員長も歴任しました。

治安維持法同盟では原本部顧問として「治安維持法犠牲者」の顕彰と名誉回復、国家賠償を求める運動に尽力し、「再び戦争と暗黒政治を許すな」と活動を続けました。時折、玉野の仲間と登山も楽しみました。  
春には仲間と墓参りに行こうとはなしています。